



Title	Development and evaluation of a mental health promotion intervention among Chinese women living in Japan [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	羅, 云潔
Citation	北海道大学. 博士(看護学) 甲第15343号
Issue Date	2023-03-23
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/89412
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Yunjie_Luo_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（看護学）

氏名：羅 云 潔

審査委員	主査 教授	田高 悦子
	副査 教授	蝦名 康彦
	副査 教授	佐藤 洋子（北海道文教大学）

学位論文題名

Development and evaluation of a mental health promotion intervention among Chinese women living in Japan

（在日中国人母親へのメンタルヘルス促進の介入プログラムの開発・評価）

当審査は令和 5 年 1 月 25 日実施の公開発表にて行われた。（出席者 52 名）

2006 年以降、中国人女性は日本における最大の外国人女性グループとなっている。しかし、在日中国人女性は、育児や文化的適応の過程で、多くの精神的な問題を経験することが多いとされている。さらにコロナウイルス感染症（COVID-19）の発生後、中国人女性は COVID-19 について強い懸念を抱き、彼らのメンタルヘルスはさらに悪化している。このようなメンタルヘルスの問題を改善するためには、適切なソーシャルサポートの提供が必要である。しかし、わが国において中国人を含む移民女性のメンタルヘルスの改善に焦点を当てた研究はほとんどない。そこで羅氏は、在日中国人女性を対象としたメンタルヘルス促進介入プログラムを開発し、その効果を評価することを研究の目的とした。

この研究は、以下の 3 段階で実施された。

第 1 段階：移民女性のメンタルヘルスの改善を目的とした介入の有効性について、システマティックレビューを実施した。1948 年 12 月～2021 年 8 月の研究を 4 つのデータベースから検索し、基準を満たした 8 件の研究について検討した。しかしこれらの先行研究では、移民女性のメンタルヘルスを改善するための効果的な介入に関する情報が十分に得られなかった。したがって、新たな介入を計画するためには、対象となる移民女性のニーズを把握する必要性を再確認した。

第 2 段階：在日中国人女性のニーズを探り、介入への提言を得るため質的研究を実施した。妊娠中または 6 歳未満の子どもを育てている 28～39 歳の中国人女性 15 人へ半構造化インタビューを行った。参加者の半数以上が、うつ症状や育児ストレスなどの精神衛生上の問題を経験していた。結果として「具体的な支援」「情報の提供」「ケアと理解」「ソーシャルネットワークの構築」という 4 つのカテゴリーが抽出された。ソーシャルサポートとして実施可能な支援の方法としては、「情報の提供」と「ソーシャルネットワークの構築」が重要であることが明らかになった。

第3段階:情報提供アプリの使用とオンライン育児ワークショップへの参加を組み合わせた、インターネットベースの介入プログラムを開発し実施した。介入群 (n=32) では週1回で合計6週間のオンライン子育てワークショップへの参加に加え、スマートフォンアプリを使用した。一方、対照群 (n=32) ではどちらも行わなかった。そして介入の効果を評価するために、事前および事後テストを実施し2群間で比較した。アウトカムは、メンタルヘルス全般、うつ状態、ソーシャルサポート、育児ストレスとし、2022年2月から4月にデータ収集を行った。介入群と対象群の平均年齢は、それぞれ33.6歳、34.2歳であった。介入群において対象群と比較して、メンタルヘルス全般の改善、うつ状態の軽減を認めた。しかし、ソーシャルサポートと育児ストレスの要素については、介入前後で差を認めなかった。なお、介入を受けた対象者は、このプログラム、特にオンライン育児ワークショップを高く評価していた。

羅氏は、考察と結論について以下のようにまとめた。

本研究による情報提供アプリケーションとオンライン子育てワークショップを含む、インターネットベースのメンタルヘルス促進のための介入プログラムは、在日中国人女性のうつ状態とメンタルヘルス全般を有意に改善したが、ソーシャルサポートと育児ストレスには影響を与えていなかった。そして、長期的な効果については、さらなる検討を行う必要がある。インターネットを利用した介入は、中国人以外の多文化的背景を持つ外国人女性にも適用できる可能性がある。インターネットを利用した介入は、アクセスが容易で便利に情報を得ることができる有用なプラットフォームであると同時に、支援者にとっても高い効率を示すといえる。また、COVID-19のようなパンデミック発生時においても、ヘルスケア従事者や支援者が、多文化背景を持つ女性のメンタルヘルスを維持・向上させるための手段となり得る。

これを要するに、羅氏は、子育て中の中国人母親のメンタルヘルスに関して、新規に開発したソーシャルサポートの手法が益することの知見を得たものであり、これは母親の負担軽減ばかりでなく子の健全な生育にも貢献するところ大なるものがある。よって羅氏は、北海道大学博士(看護学)の学位を授与される資格あるものと認める。